

賢治の森「立石」 スッキリした！

「昔、立石に上ると人首の町が見えた。」と古老が言う。昔は確かに高く思えた。自然に崩れ、低くなった。その立石が雑木などにすっかり覆われ哀れな姿に。みんなも気がついていたのである。すぐ同調してくれた。ありがたいことだ。10年前に伐った松の木のこどもが2メートルほどに成長していた。 ボランティアの春男さん、小竹さん、平八さん、秀夫さん、いつもありがとう！



2020年7月



蓮華つつじを残しながら蔦や漆を取り除きさっぱりした立石とボランティアの皆さん

種山ヶ原の草花 アザミ、山紫陽花、野ハナショウブ

作業の傍らで、アゲハチョウとミツバチがアザミに吸い付いていました。一生懸命です！
しかし、種山ヶ原では2週間前には春ゼミが鳴っていたのに、ヒグラシにかわり、草原には秋トンボが群れ、萩が咲きました。地球はどうなっていくのか。SDGsだ。「地球全体の幸福のために……」



雲の中の風の又三郎



物見山から胆沢平野を望む 夜景もきれいだよ。



雨雲が種山ヶ原に

「人首にも、お茶の木が」

「お茶を作って飲んでみました。 うんめーじゃ！」

「茶畑」という屋号がある。昔の人首城の北へ半里程の東向きの小高い丘の上に立っている。お茶を作って殿様に献上していたのだろうか。確かに畑の隅に大きなお茶の木が残っていた。調べてみると、5軒ほどお茶の木を植えている家があった。100年以上前からお茶の木がある家もあった。

先日、2軒のお宅からお茶の葉を頂いて、レシピを頼りに自宅で作り、仲間内で飲んでみました。はじめ半信半疑でお茶を飲んでいましたが、以外にも「お茶だじゃー。うんめーじゃ」。ホッとしました。作り方は、インターネットにたくさん載っているなので、とても参考になりました。早い話が、乾燥させればよいようです。次はいよいよ文化財の人達です。

実は昨年「茶畑」の主にお願ひして、残っていたお茶の木の近くに5本の苗木を購入し、文化財調査委員会で植栽させていただきました。困ったことに、お茶の葉はカモシカや鹿に食べられてしまう。旨いのだろう。

初秋に挿し木をすると、こんなかわいい花が ↓



「茶畑」  5本植栽場所



残っていた貴重なお茶の木



冬は寒さと鹿から守るために



100年以上たつというお茶の木